

さいとうよしふみ

齋藤兆史著「英語達人塾、極めるための独習法指南」中公新書、2003年6月25日刊を読む

- (1) ①なすべきことはただ一つ、そのような難文を読みこなせるようになるまで、辞書を片手にひたすら読む。
- ②英語の発音をよくするための最も効果的な独習法は、英文の音読である。
- ③大きな思想の盛った詩を、何度も何度も、おうおうと音読練習する。すると、だんだんと調子が出てくる。
- (2) ①発音記号を覚える、発音記号を確認する。
- ②記号を見ながら、何度も何度も発音を確認する。
- ③強勢(アクセント)の位置を確認する。
- (3) ①中学や高校で音読練習。
- ②先生は、授業を中断してでも、発音を確認する。ゆっくりと音読する。
- ③<発展学習>毎日1回、最低でも200語程度の英文をゆっくり音読しなさい。発音が分からなかったら、必ず辞書で確認すること。
- (4) ①つねにポケットにペーパーバックなどを忍ばせておいて、人のいないところで素読すること。いい英文を声に出して読む。内容など二の次で、ただ、英語の響きを楽しむ。これを習慣付けることが肝心なのである。英語のリズム、英語の「ノリ」を体で覚えてしまえば、英文の善し悪しは、読んだ時の調子でわかるようになる。
- ②素読とは、同じ文章を何度も何度も繰り返し音読すること。何度も繰り返して読むに足りるだけの名文を教材に選ぶ。
- ③素読を実践する際には、本当なら、寺子屋の授業のように、師匠が読んだ後について、発音、強勢、抑揚に気を付けながら読むのが理想的である。
- ④テープやCDをかけ、印刷教材を目で追いながら、朗読の声に合わせて、軽く口を動かしてみる。それを何度か繰り返して文章のリズムがつかめたら、今度は一人で音読する。
- ⑤そして時々朗読の声を聴いてリズムを確認しながら素読を続けているうちに、英文の調子ができるようになる。
- (5) ①文法の学習なくして英語の上達はあり得ない。
- ②日本語と英語が、構造上全く異なる言語である以上、並の日本人が週に5～6時間程度の英語の授業を受け続けたって、不自由なく英語を使いこなせるようにはならない。したがって、高度な英語を身に付けようと思ったら、最低でも伝統的な学校英文法をキチンと勉強しておく必要がある。

③<発展学習>大学受験レベルの英文法の学習参考書を、最初から最後まで3度通読しなさい。特に、日本人が不得意とする冠詞と前置詞の用法についてしっかりと解説を読んでおくこと。

- (6) ①語学力は辞書を引く回数に比例して伸びるものだと信じている。
- ②少なくとも、読解力に関していえば、辞書をこまめに引くか引かないかが、決定的な差になることは間違いない。
- ③手取り早く、確実な(しかし根気のいる)英文読解の勉強法は、何とんでも英書の多読である。しかも、辞書をこまめに引いて読まなくてはならない。
- ④使いやすい辞書を入手したら、英語を勉強する際は常にそれを座右に置いておく。英文を精読する際には、知らない表現や単語が出てくるたびにそれを引くという心がまえが必要である。
- ⑤辞書をこまめに引いて英文を精読する訓練を欠かしてはいけない。
- ⑥語彙力を高めるために、単語帳を作ることをお勧めする。単語帳は、普通のノートを用意していただきたい。最初に見出し語、次に発音記号を書く、品詞も重要。基本的な意味は当然、書き写す。
- ⑦知らない単語が出てくるたびに、必要な情報を単語帳に書き写す。以前調べたにもかかわらず忘れてしまった単語も、また同じように辞書を引いて同じように必要な情報を書き写しておく。
- ⑧いやしくも達人レベルを目指そうというのであれば、せめて英語辞書の1冊2冊、ボロボロになるまで引き込むとか、手頃な辞書を1、2回通読するとか、そのくらいの努力はしていただきたい。
- (7) ①ピアノが上手く(うまく)なりたかったら、クラシックの名曲を暗譜するくらいまで引き込まなくてはならない。
- ②落語家になろうと思ったら、古典落語は空で演じられるようになるまで、稽古(けいこ)を積まなければならない。
- ③体が覚えるまで手本をさらうこと。この学習の基本原則を、語学に当てはめれば、例文の素読・暗唱ということになる。
- ④やはり、手本は名文に限る。名文を読むとは、最も洗練された言語表現を体感することである。その朗読・暗唱を通じて、美しい言葉の形を体に練り込むことほど有効な語学学習法はない。
- ⑤具体的な手順としては、まず一つ目の文を、(発音がわからない単語があったら、きちんと辞書で調べて)音読したのち、解説を読んで内容を確認したら、意味的な切れ目などを意識しながら、ひたすら読む。
- (8) ①暗唱は、一つずつ個別に行った方がいいだろう。すなわち、一つの文章を完全に覚えたと思ったら、まずそれを一晩頭の中に寝かせる。翌日になってもそれを誦(そら)んじることができ

るようになれば、次の文章に進む。

②(斎藤先生は、バートランド・ラッセル、ジョージ・オーウェル、サマセット・モーム、カズオ・イシグロをお勧めのようです) (林)

- (9) ①多読。英語の多読なくして、高度な英語力の養成はあり得ない。多読によって英語力をつけようと思ったら、さっと読んで内容が 7 ~ 8 割理解できる程度の英文を選ばなければならない。
- ②まずは、やさしい英語で書かれた作品を多読したり、自らの関心に合わせて数冊選び、辞書を引きながら読んでみるのがいい。
- ③できれば、できるだけ上質な英語で書かれた文学作品や随筆などをたくさん読むことが望ましい。
- ④将来英語で飯を食おうという学生諸君には、少なくとも 1 日平均 30 ページ(欲を言えば 40 ~ 50 ページ) 読んでほしい。
- ⑤高度な読解力を目指す社会人なら、1 日平均 10 ページといったところか。
- ⑥毎日、たゆまず努力すれば不可能ではない。より高い目標を掲げれば、それだけ、高いところに登れる。精進していただきたい。
- ⑦<発展学習>今から 1 年以内に、最低 2000 ページの英文を読みなさい。
- (10) ①丸暗記。<発展学習>高校で学習する程度の文法事項を網羅した英文法書を、丸暗記しなさい。
- ②所用時間は、2 ~ 3 か月程度。
- ③最低、3 ~ 4 回の通読が必要と思われる。
- (11) ①英作文。
- ②英語学習の一環として、英文日記をつけるときの心構えは、I は省略してもいいから、きちんとした文を作ること。
- ③毎日、毎日、丹念に作文をしてほしい。
- (12) ①やはり、人を相手に話す訓練は語学の学習には欠かせない。できれば、母語話者相手に。あるいは母語話者が臨席している場で、英語を話す機会を自分で作ってほしい。
- ②それなりの必然性のある所で英語を話すよう心掛けてほしい。そのためには、新聞や地方自治体の広報や案内パンフレットなどにこまめに目を通し、英語の母語話者を講師に迎えての講演会やセミナーなどの広告を見つけたら、それに積極的に参加する。
- ③参加申し込みをしたら、講演会・セミナー当日までにそれについての勉強をし、問題意識を高めておく。予め聞きたいことを思いついたら、その段階で質問項目を作文しておいてもいいだろう。講演会、セミナーの席では、会の進行を妨げないようにして、発言の機会を窺う。

(13) ①英語を話す外国人が来たら、通訳を買って出る。(十分下調べして通訳に当たる)

(14) ①書写とは、文字通り書き写すこと。

②書写帳を用意して、これだと思う英文をただ書き写す。

③素読・暗唱用の名文などを書き写す。同じ名文を覚えるでも、口や耳ばかりでなく、手を使うと効果が高い。

(15) ①ラジオやテレビ、放送大学の語学講座。

②放送大学やNHKが多くのラジオ英語講座を提供しているのでそれを大いに活用。

③NHKラジオ「原書で読む世界の名作」、ビジネス英会話、放送大学の英語講座も。

* 英語ニュースや音声切り替えで映画などを見るのも有用(林)

(16) ①英語を学ぶもっともよい方法は、英語を教えることだ。

②先生の側に立つと、予習が間に合わないなどと甘えたことを言われていられない。どこを聞かれてもいいように、生徒の数倍は細かく下調べをしていかななくてはいけない。

③実際、家庭教師をして、英文法がよくわかるようになったという大学生はたくさんいる。

<コメント>

斎藤先生のお教え、参考になりました。身に沁みます。英語の先生はもちろんのこと、(1)～(15)の各項目ごとに、皆様ならどうするか、お考えください。英語以外の外国語や、教科の学び方、指導の仕方にも参考になる内容です。是非ご購入ください。

よろしく願いいたします。

お身体大切に。

2022年3月7日(月)